

「化学物質のリスク評価及びリスク評価手法の開発」研究成果報告会 参加状況およびアンケート集計結果

1. 参加状況

1) 参加者数

2007年1月22日、23日、「化学物質のリスク評価及びリスク評価手法の開発」研究成果報告会ーリスク評価の方法論と実践ーが、独立行政法人製品評価技術基盤機構、独立行政法人産業技術総合研究所、財団法人化学物質評価研究機構の主催で行われました。

参加者数は、22日が430人（うち、来賓18人）、23日が441人（うち、来賓22人）、2日間の延べ人数が871人（うち、来賓40人）、純人数が637人（うち、来賓27人）でした（表1）。また、CRMが担当したワークショップは、いずれも会場の座席がほぼ満席になりました（表2）。

表1 参加者数（単位：人）

22日 (ワークショップ)	23日 (講演会)	2日間の 延べ人数	2日間の 純人数
430	441	871	637

表2 各ワークショップの参加者数

ワークショップ名	参加者数（人）
a. 室内暴露	123
b. 金属の詳細リスク評価で考慮すべき事項	128
c. 詳細リスク評価における有害性評価	130
d. 個体群レベルの生態リスク評価	126
e. 発生源・排出量の推定と検証	114
f. 大気環境の暴露評価におけるモデルの活用	118

2) 参加者の所属

2日間の参加純人数 637 人の所属の内訳は、一般企業が 55% で最も多く、次いで公的研究機関、地方自治体、大学教員、中央官庁の順でした。なお、その他には、業界団体（社団法人、その他）、財団法人、出版社・マスコミなどが含まれていました（図 1）。

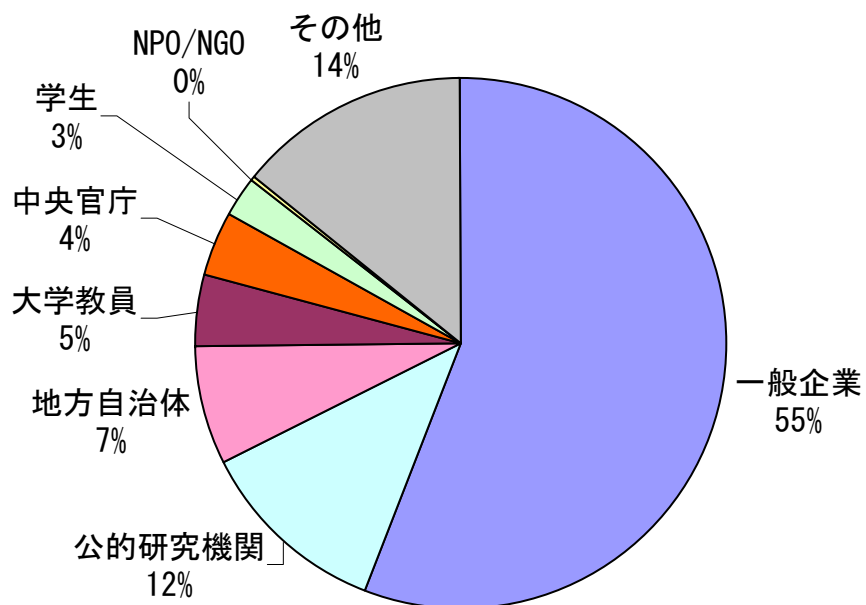


図 1 参加者の所属の内訳

2. アンケート集計結果

1) 回答者の内訳

アンケートは、22日にはワークショップのそれぞれのセッション毎に、23日は講演全体を対象として実施しました。初日は各34～53名（回収率26～42%）、二日目は143名（回収率32%）から回答が得られました。アンケート回答者の所属の内訳は、参加者全体の比率をほぼ反映する形で、様々な所属の方から回答が得られました（図2）

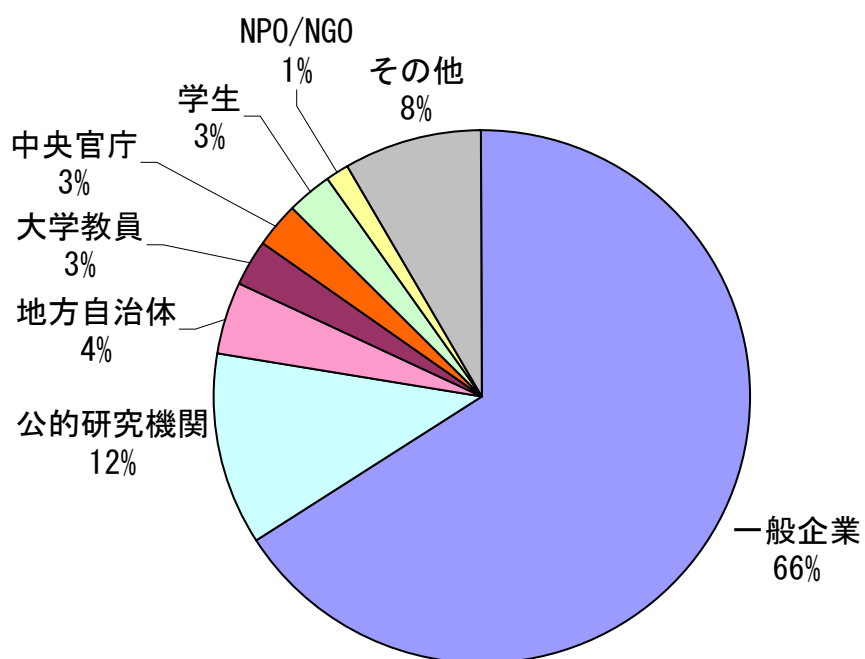
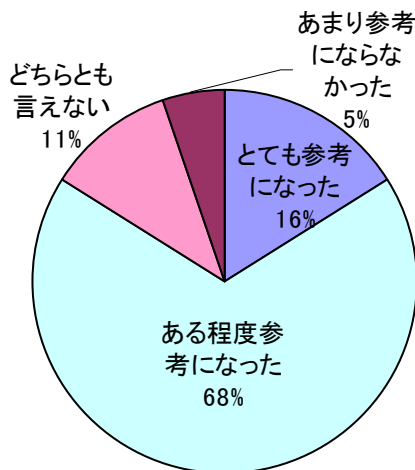


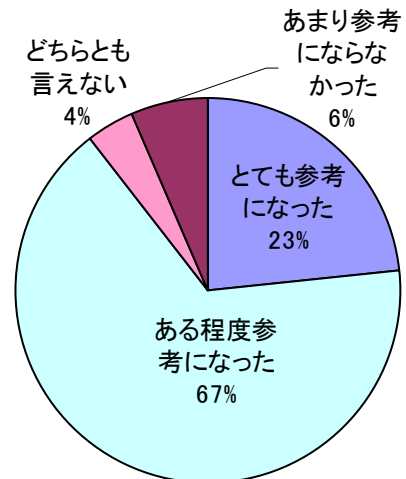
図2 講演会（2日目）のアンケート回答者の所属の内訳

2) 参考になった度合い

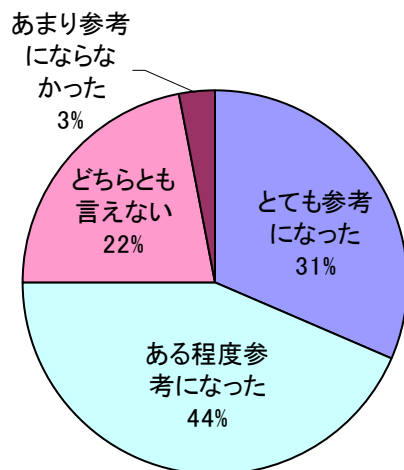
内容が参考になった度合いを、5段階（①ほとんど参考にならなかった、②あまり参考にならなかった、③どちらとも言えない、④ある程度参考になった、⑤とても参考になった）で質問しました。参考になった（つまり上記の④か⑤を選択した）と回答した人は、各ワークショップについては、a. 84%, b. 90%, c. 75%, d. 90%, e. 89%, f. 93%, 講演会については 91%といずれも非常に高い割合でした（図 3）。



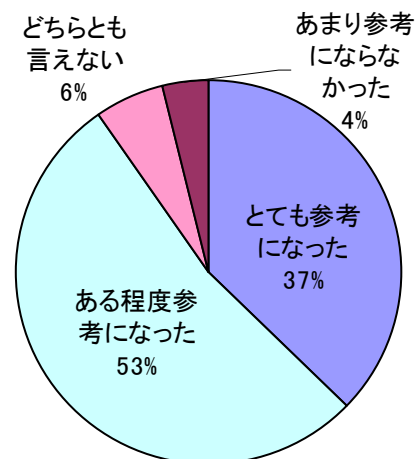
(イ) 室内暴露 (回答数 37)



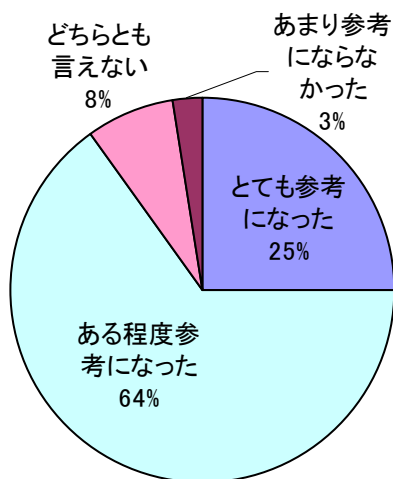
(ロ) 金属の詳細リスク評価 (回答数 50)



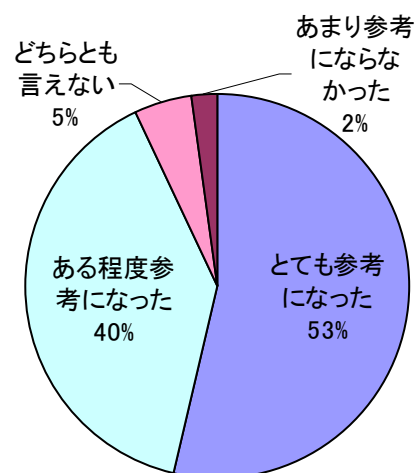
(ハ) 有害性評価 (回答数 34)



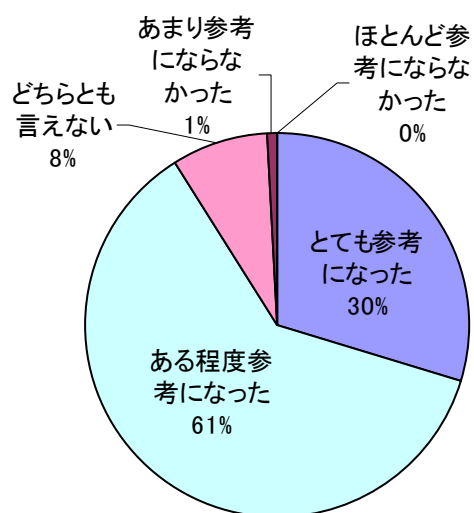
(ニ) 生態リスク評価 (回答数 53)



(ホ) 発生源・排出量 (回答数 40)



(ヘ) 大気環境の暴露評価 (回答数 45)



(ト) 講演会 (回答数 124)

図3 各ワークショップおよび講演会が参考になった度合い